



はとつうしん

No.84 2025. 1. 1 (創刊 1989年7月)

○発行／日高市民生委員・児童委員協議会／日高市大字南平沢1020番地 日高市役所生活福祉課

聖天院の春

写真提供 高麗川地区 小林 一夫



新年の挨拶

― 民生委員・児童委員の皆様へ ―



高萩地区民生委員・児童委員協議会

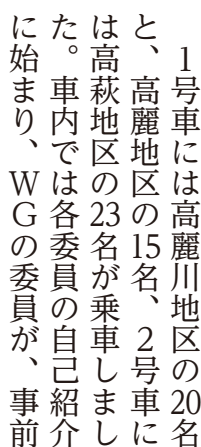
会長 杉山 博行

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えました。委員任期最終の3年目に入ります。初めて委員になられた方、ずっと続けられてきている方、それぞれにいろいろな経験をされて新年を迎えている事と思います。コロナが何とか収まり、活動も今までのものを取り戻しつつあるというのが正直な今日だと思います。「あの人がこうすれば、この人にはもうちょっと丁寧にと、年が明けて振り返ってみると反省やら後悔やら、思い起こすことがたくさん出てきます。

「超高齢化社会」本当に周りは高齢者が多いと感じます。同時に「子どもたちへの虐待・いじめ」といった今までになかった課題がクローズアップされてきています。残された1年の任期、やることは次から次へと出てきています。新しい年の空気を胸いっぱい大きく吸って、「あの民生委員・児童委員さんに相談してよかった」と言われるようになりましょう。そして普段の活動を通して、私たち一人一人が地域社会に貢献している実感をもてるよう、関係機関の皆さんの協力をいただき、力いっぱい活動を展開していく年にしましょう。

新発田市を訪問

最初の会議では、一泊で行ける範囲の県が検討され、研修内容、研修機関など、WG全員が持っている経験、知識の中から数力所の県が選ばれました。その中から最終的に新潟県新発田市で行われている「ひきこもり」に関する斬新な取り組みについて、新発田市社会福祉協議会地域福祉課の川瀬課長の講義を受けることとなりました。そして、高麗地区の委員が主となって日



講演する川瀬氏と研修資料

新発田市
社協に到着
した午後2
時から2時
間にわたり、
新発田市社

- ・福祉のまちづくりの必要性
- ・地域での支え合いに向けて

- ・地域みまもり隊の活動

- ・ 思いや状況に応じた支援

・新発田版生きづらさを抱える

若者等支援ネットワーク

など、若者等の引きこもりに対

する、斬新な手法を取り入れた

ものでした。受講の後、双方の

活発な意見交換が取り交わされ

有意義な時間を持つことが出来

ました。

その後、宿泊先に到着した夜

の懇親会では、高麗川地区W G

委員提供の景品の抽選会などで

盛り上がりました。

翌日は、阿賀野市の「ヤスダ」

「ヨーグルト」の工場見学と、新

潟市の「北方文化博物館本館」

の見学を行いました。これは第

その後、北陸道、関越道などを使って、予定どおりに日高市へと帰る事が出来ました。

今までは役員会や部会に参加して各地区の限られた委員とのつながりはありませんでしたが、今回の研修に参加して、一年に一度の合同定例会や総会でしか顔を合わせたことのなかった委員とも一緒に活動出来たことは大変有意義な経験でした。

高麗地区
吉田明正

三地区合同県外研修ワーキンググループメンバー

深仲吉上西梅大金大
久河
瀬野田野島澤保子原
周孝明良 輝祐裕万
一子正子昇男二己次

区 長 と の 懇 談 会



高麗川地区

小林 一夫

6月23日、高麗川学校区で、区長と民生委員・児童委員との懇談会が行われた。前嶋会長及び区長会会長の守谷氏の挨拶の後、飯能警察署警備課長の講演があり、災害対応能力強化対策・出水期における水害対策・災害時の備えや心掛け等についての話があった。更に、防災対策の考え方としては、「自助」「共助」「公助」ということが言われているが、「公助」（国や地方公共団体の援助）が届くまで、「自助」（一人ひとりが自ら取り組むこと）・「共助」（身近にいる人同士と一緒に取り組むこと）が大切であるとの講演であった。

次の区長との懇談では、「地域における自主防災組織」について話し合われた。各自自治会とも、防災訓練・避難場所の確認の必要性が述べられた。避難訓練では、救出班・炊き出し班等の分担を決めたり、安否マップを作成し、避難経路の確認、世帯ごとの未成年・成人・高齢者

の人数の把握などを行っている自治会もあった。また、避難誘導訓練では、自治会加入者が対象になるが、未加入者への対応が課題とされた。また、大きな地震や火災等が発生した場合、自治会や民生委員の対応についても、検討しておくことが必要ではないかとの意見もあった。



高麗川地区

水越 映子

6月に、こま武蔵台自治会、民生委員・児童委員、武蔵台福祉ネット・地域おたすけ隊、NPO法人元気ネットの情報交換会が開催されました。

「高齢で班長の仕事ができない、という理由で、自治会から脱会する人が増えている」「地域おたすけ隊の移送事業で、担い手が高齢化しているため、若手の協力者が欲しい」「ゴミ出しの日を間違ってしまう人がいる」等々、高齢化による様々な問題が指摘されましたが、互いの活動を知ることによって、協力しあえる部分もあることがわ

かりました。

縁あって同じ地区に生活している者同士、少しでも住み良い地域にしていきたいために、今後も情報交換を密に行っていくことの大切さを実感しました。



高萩地区

佐々木 清子

7月28日、高萩公民館にて、区長との懇談会を開催しました。杉山地区会長から「民生委員とは」のお話を聞き、区長代表、長岡氏の挨拶の後、南と北に分かれて意見交換をしました。

南地区では、自治会でボランティアのクラブを立ち上げ、独自に活動している地区もあるが、自治会に加入しない世帯が多く、役員のなり手がいないなどの意見が出ました。

また、北地区では、今後の課題として避難行動要支援者の名簿の活用方法。高齢者の孤独死への対応。区長や地域の人達にも異常を早期に見てくれるよう協力してほしい等、活発な意見交換ができた有意義な懇談会でした。

あんなこと・こんなこと



高萩地区

小鹿野 仙治

先日、地区定例会で救命・救急の実技訓練を受けました。一週間後、早朝に犬の散歩をしていたところ、歩道と車道の路肩の所に中年男性がおお向けに倒れていました。訓練を思い出し、その人に近付いて行き、「大丈夫ですか？」と大声で呼びかけ反応を確認しました。反応がありませんでしたので、通行人に助けを求めました。しかし、通行人は振り向くけど行ってしまう。訓練を受けた際は役割分担されていて、直ぐ来てくれたのに、大分訓練とは違うと思いました。そこで自ら一九番通報し、胸骨圧迫を行いました。救急車が7分位で到着し、消防の人に引き継ぐことができました。このたび、訓練を受け、実際に教わった内容を参考にして実践に役立てることができました。



家庭児童部会
須藤 しのぶ

「家庭・児童」というと、とても身近に感じますが、逆に踏み込むのが難しくもあります。コロナ流行時に、家庭内の不和が深刻化しやすい環境が続いたためか、昨年、県警に寄せられたDVの相談や児童虐待の通告件数が最多だったそうです。

はて？ 私たちに何か出来るのでしょうか……。未然に防ぐ事？ 手を差し伸べる事？ もどかしいばかりです。でも、相談された時、寄り添い、聞いてあげる事は出来るのではないのでしょうか。

私たち家庭児童部会は、知識を蓄え、寄り添う心を育むため、出前講座で学び、施設見学で見聞を広め、活動しております。民生委員・児童委員としてだけでなく、人としても成長出来るよう、これからも活動して参ります。



障がい者部会
結城 昭司

令和5年5月に三年間の活動計画を検討し、「担当地区で生かせる研修をする」を目当てにしました。一年目は、日高市の障がい者福祉計画等の講義を市職員から受けました。二年目は、手話と点字の実技指導を受けた

り、日高特別支援学校を訪問して生徒の活動を見学したりしました。三年目は、障がい者のケアラーの話を聞いたり、担当地区の実態調査をして対応策を考えていく予定です。また、ボランティア活動では、昨年・今年とかわせみ夏祭り(日和田会主催)

には部会として参加できませんでしたが、社会福祉協議会の「あいまいまつり」には、単位民児協から4名ずつ参加しています。両団体とも社会福祉法人(業務内容が違う)なのに扱いが異なるのは如何なものかと疑問をもつ3年間でした。

部会合同研修 取材活動より

10月30日、高齢者部会と地域福祉部会の合同研修が行われた。バスの中では、社会福祉協議会の鹿山朝香氏による日高市のボランティア活動についての講演があった。日高市には、子ども食堂や地域おたすけ隊など、111団体、延べ2521名、個人では38名が活動しているとのことであった。

今回訪れた施設は、茨城県龍ケ崎市で2002年、私財でコミュニケーションハウスを建設し、2004年にNPO法人茨城県南生活者ネットを設立して活動している松原卓朗氏の活動拠点。



私財を投じて建設したコミュニケーションハウスと15年間の歩みをまとめた冊子

ここで は、市民塾として語学や健康・パソコンなど、様々な講座、ボランティア活動や市



夢を乗せたロケットの前で

民活動センターの運営受託などを行っている。また、「やまびこ自然園」の竹林整備やキャンプ場運営・

自然環境体験学習・インターネット放送など、野外や外部に向けての活動にも力を入れている。最後に松原氏が語ってくれた

世の中はコミュニケーションが大事である。それを実行するために建てた施設を「コミュニケーションハウス」と名付けた。

午後は、つくば市にある筑波宇宙センター「JAXA」を見学。日本の最先端の研究施設だけあって、セキュリティの厳しい中、各施設の担当者のガイドで、分かりやすく説明していただいた。宇宙ステーションの実験棟「きぼう」と交信し、管理する部屋や、実際に使われた宇宙服や訓練施設などを見学した。400キロ離れた宇宙への夢が膨らんだ時間であった。

広報部会

地区定例会の内容紹介



高麗地区
青山 易子

今年度の高麗地区定例会では、次の様なテーマで研修を行った。「地域おたすけ隊について」「ヤングケアラーについて」「社会調査に伴うグループ討議」等々。その中でも私の印象に残っているのは、九月に実施された市内の児童養護施設同仁学院の見学だった。昭和二十年に、終戦直後の混乱期から児童を救うための施設だったが、現在は虐待等による入所者も少なくない。そんな中、児童がより身近に大人の愛情を受けて成長出来る環境をと、早期に小舎制の寮の建設に取組み、地域には、ファミリーホームも設置している。県内では施設の需要に対し、全く数が足りていない状況が現実である。しかし、同仁学院の働きは、理念に沿って「行いと真実をもって愛する」こと。その真摯な姿勢に感動させられた。



高麗川地区
小林 一夫

8月8日、定例会において、出前講座を行った。テーマは、高麗川地域包括センターの内野茂貴氏による、「認知症サポーター養成講座」であった。高齢化が進む中（高齢化率全国28%・日高市33%）、認知症の高齢者も増えている。10年前は517万人であったが、16年後は584万人になると推測されているとのことであった。認知症とは、加齢や病気などで認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態で、誰にでも起こり得る脳の病気である。症状としては、
①記憶障害（もの忘れ）
②判断力低下（今まで出来ていたことが出来なくなる）
③見当識障害（今、どこにいるのか・どこに行こうとしているのか・今の季節は何かなどが分からなくなる）
その結果として、徘徊などが始まるという。

認知症は完治することはないが、早期発見・早期受診・早期治療で進行を遅らせることはできるという。認知症の人への対応の心得には、
①驚かせない
②急がせない
③自尊心を傷つけない
の「3つの『ない』」が大切であるという。具体的な対応としては、次の7つがポイントであるとのことである。

- ①まずは見守る
- ②余裕をもって対応する
- ③声をかけるときは一人で
- ④後ろから声をかけない
- ⑤相手に目線を合わせてやさしい口調で
- ⑥おだやかに、はっきりとした滑舌で
- ⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

認知症ガイドブック
～日高市 長寿いきがい課より～

認知症のサインに気づいたら、早めに受診や治療を勧めることが大切であると思える講座であった。



高萩地区
高木 安寛

高萩分署の指導による救命・救急の実技訓練は、本来ならもっと前の予定でしたが、定例会の実施日に災害等が重なり、延期され、この度、実施されました。「救急・救命訓練のポイント」
①突然倒れた人や反応のない人を発見したら、ただちに心肺停止を疑い、119番通報とAEDの手配をしながら、救命活動に努める。
②心肺蘇生法とAEDの使用は私たちができる処置であり、発見後、救急車が到着するまでの対応が、心肺停止傷病者の回復を左右する。
目の前に倒れている人に出会った時に慌てないよう、日頃より訓練を続ける事が大切だと感じています。今後も定例会等での今回の研修を継続的に行い、救命・救急実技のランクアップを図りたいと思います。

福祉活動への協力

赤い羽根共同募金

10月1日、

高麗地区は高麗駅前で、高萩地区はベイシア店舗入り口とサイボクで、高麗川地区は6日にヤ

オコー店舗入り口で、それぞれ赤い羽根共同募金を行いました。

ベイシアでは、地元の高校生も一緒に募金活動を行いました、大きな声で呼びかけていました。

最近では小銭を持たない人も増え、「電子マネーで…」という声も聞かれたとか…。

子供連れの人は、子供に募金の大切さを教えるためか、子供に募金させる人もいました。

今年も多くの方に協力していただき、

三万九千七百九円を集めることができました。

高麗地区は高麗駅前、高萩地区はベイシア店舗入り口、高麗川地区はヤオコー店舗入り口で、それぞれ赤い羽根共同募金を行いました。



あいあいまつり



いろいろなイベントを楽しんでいました

開催報告

第50回埼玉県民生委員・児童委員大会

令和6年9月5日(木)、埼玉会館において開催され、各地区から4名の委員が参加した。

令和6年度埼玉県社会福祉大会

令和6年10月31日(木)、埼玉会館において開催された。

第38回日高市社会福祉大会

令和6年12月3日(火)、総合福祉センター「高麗の郷」で開催され、受賞者の福山和子委員が出席した。

令和6年度主任児童委員制度創設30周年埼玉県民生委員・児童委員主任児童委員大会

令和6年12月9日(月)、埼玉会館において開催され、前嶋謙一郎会長の他、奥平深雪委員、田中和香子委員、そして神田美佳主任児童委員が参加した。

受賞 おめでとうございます

日高市定例表彰

横手 幸江
鈴木 敏男
金子 まさ子
倉本 信代
小泉 敬子

全国民生委員児童委員連合会表彰
永年勤続民生委員・児童委員表彰

横手 幸江
鈴木 敏男
金子 まさ子
倉本 信代
小泉 敬子

埼玉県社会福祉大会知事表彰

岡崎 三千代

日高市社会福祉協議会会長表彰

福山 和子

優良民生委員・児童委員協議会表彰

高麗川地区民生委員・児童委員協議会

新任民生委員・児童委員

令和6年7月1日付

高萩地区 島村 明男

令和6年10月1日付

高萩地区 大森 保明

あとがき



令和6年1月1日、民生委員・児童委員の委嘱を受け、同時に広報紙「はとつうしん」の発行に携わることになりました。何も分らぬままの第83号発行が最初でした。スケジュールについていくのが精一杯で、ただただ諸先輩の作業を見ているだけでした。今は「はとつうしん」が、私たちの地域が直面するさまざまな課題や、コミュニティの発展に向けた取り組みの発信に、大きな役割を担っていることを感じます。本号では3地区合同県外研修、「新潟県新発田市を訪問」が掲載されています。このような経験を今後の活動の糧とするとともに、地域おたすけ隊等の活動で得られる皆様の意見や希望をしっかりと聞き、そして理解して、まだ活動1年目ですが、民生委員の皆様の力を借りて、地域のために歩んでいきたいと思っています。

高麗川地区 岩本 俊哉